

久喜南中生徒の
きもちが動いた

認知症サポーター 養成講座を 実施してみたら

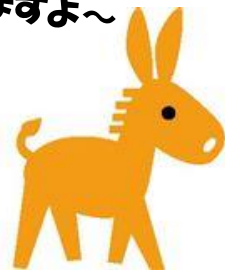
～久喜南中2年生の感想(R3.2.25開催)～

今日は久喜南中学校に行きますよ～

は～い

お～

ラジャー



中学生にとって、『認知症』や『ケアラー』は身近なものではないかもしれません。

今後、高齢者が増えるとともに、地域で暮らす認知症の方も多くなると言われています。地域に目を向けると、認知症の方だけでなく、障がいのある方や同じ中学生の“ヤングケアラー”もいるでしょう。

いろいろなことを学び、相手の立場になって『自分に何が
できるか』や『相手がどんなきもちでいるか』を考えられる
人になってほしいと願っています。

認知症サポーター養成講座の実施については、
下記までご連絡ください。
ホームページをご覧ください。

久喜市社協



で検索

社会福祉法人久喜市社会福祉協議会
久喜市青毛753-1(ふれあいセンター久喜内)
☎0480-23-2526

①認知症の方と家族の話(映画予告編)

母(87歳)、認知症、 父(95歳)

はじめてリンゴの皮をむく父。

「(妻の介護は)わしがやる」と。

父と母には、どんなきもちがあるのだろう...



②予告編を観たあとのきもち

認知症は忘れてしまうからかわいそう

どうしよう

認知症になることは怖いこと

大変だ...

生活が変わってしまう

大変そうでつらそう

認知症になるとどんどん変化してしまう

とてもかなしいこと

でもがんばって生活している

こんな意見もありました

90才でもはじめての家事すごい!



③認知症について、学びを深める

『認知症とは?』

『認知症の人のきもち』

認知症は脳の病気

認知症になりたいくてなる人はいない

中核症状

行動・心理症状

うれしい、かなしい
自分と同じきもちがある

周りの人の助けでよくなる

一番不安なのは本人



3つの「ない」

さっき説明してたなあ

『ワークシートで復習』



ぼくたちが思っていた認知症と違うね

④こんなきもちがうまれました(生徒のきもち)

みんな大事

自分がサポートしたい

認知症になったから生まれた関係もある



きもちをつないでいこう!

相手もつらいだからやさしくしたい

全てがわからないことではない



認知症の方をつらいきもちにさせてしまうのではなく、**幸せなきもち**になるような地域にしたいと思いました。

※受講後の南中生徒の気づきや感想を集めたものです。

認知症って何?



どういふことが認知症なの?

